

Film Exhibition Network Conference 2004 in KOCHI

映画上映ネットワーク会議 2004 イン 高知

今年のテーマは、“映画教育について考える”

9回目となる今年の会議のテーマは、“映画教育について考える”です。

映画文化の未来をになう子どもたちに映画の素晴らしさを伝えるために何をなすべきなのか、コミュニティシネマの使命のひとつにも挙げられている「映画・映像教育」をどのように実現するのか。映画・映像教育の先進地域であるフランス、イギリスの事例を聞きながら、コミュニティシネマにおける教育プログラムを考えます。

今回の会議では、フランスからのゲスト、アラン・ベルガラ氏が、高知の子どもたちに向けて、映画を上映し、その素晴らしさ、魅力を語りかけるワークショップを実施します。

国内でも多くの団体が、孤軍奮闘しながら教育プログラムを実践しています。日本における映画教育をより充実したものとしていくためには何が必要なのか。皆さんといっしょに考えたいと思います。

また、コミュニティシネマについて自由に議論していただく時間もたっぷり用意しています。

“コミュニティシネマ宣言”後の新しい一歩を記す
「映画上映ネットワーク会議」に是非ともご参加ください。

参加を希望される方は、別紙の申込用紙にご記入の上、
8月10日(火)までにファクシミリ(FAX.03-5562-4423)でご送付ください。
(ご出席申し込みに対しては、折り返し確認書をお送り致します。)

日程:2004年8月20日[金]21日[土]

会場:高知県立美術館 高知県高知市高須 353-2

主催:財団法人高知県文化財団/高知県立美術館
コミュニティシネマ支援センター
財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン)

支援|文化庁

後援|高知県教育委員会、高知市教育委員会、NHK高知放送局、高知新聞社、
RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、エフエム高知

会議参加費:2000円(20,21日共)/レセプション参加費:3000円

問い合わせ:

コミュニティシネマ支援センター/エース・ジャパン

TEL | 03-5562-4422 FAX | 03-5562-4423

www.acejapan.or.jp www.jc3.jp

財団法人高知県文化財団 TEL | 088-866-8006 FAX | 088-866-8008

Film Exhibition Network Conference 2004 in KOCHI

映画上映ネットワーク会議 2004 イン 高知

“映画教育について考える”

プログラム

8月20日(金)

13:00 開会 主催者挨拶

~13:30 (1)コミュニティシネマ支援センター「活動報告」

松本正道 (コミュニティシネマ支援センター運営委員長)

13:30~15:00 (2)基調講演1「フランスにおける映画教育」 アラン・ベルガラ

アラン・ベルガラ氏は、パリ第三大学で教鞭をとる研究者・批評家であり、ドキュメンタリー「パゾリーニの小さな花」などを撮った映画作家でもあります。1970年代より、映画教育にも熱心に関わり、現在のフランスにおける映画教育の中心的な存在となっています。なぜ、映画教育が必要なのか、その理念と実践を聞きます。

アラン・ベルガラ Alain Bergala

映画館が3軒あった人口8千人の田舎町で生まれ、セシル・B・デミルからフランソワ・トリュフォー、フランスの番線映画までありとあらゆる映画を観て育つ。奨学金を得てエクサン・プロヴァンスの教師養成校へ。学生時代は年間3百本の映画を観て、シネクラブをオーガナイズし、当時唯一映画講座があったエクサン・プロヴァンス大学のアンリ・アジェルの授業に出ている。卒業後は海外協力隊員としてモロッコへ。帰国後パリ郊外のエッソンヌの文化センターに職を見つけ、カイエ・デュ・シネマ誌へ執筆し始める。J=P・リモザンと『逃げ口上』(1983)を共同監督。3本のフィクションと多数のドキュメンタリーを監督。現在の公職は、パリ第三大学・映画教授、FEMIS・映画分析学部長、CNDP・DVDコレクションのディレクター。映画教育の体験をまとめた『HypotheseCinema』ほか著書も多い。

15:15~16:30 (3)基調講演2「イギリスにおける映画教育の実践」 ウェンディ・アール

イギリス・英国映画協会(BFI)教育部門は、小中学校から大学まで幅広い対象に対するメディア・映像教育のための教材の開発や各種調査事業、映画教育イベントの実施、教師や映画館における教育プログラム担当者を対象とした人材育成事業など、非常に充実した映画教育プログラムを展開しています。この講演では、BFI教育部門の概要を聞くと同時に、BFIが提供する教材やカリキュラムを活用した、学校や映画館における映画教育の実践例を映像を交えて報告していただきます。

ウェンディ・アール Wendy Earle

1975年から10年間、国語教師として教鞭をとる。この経験を活かして、1984年から教材関係の出版社に勤務。2000年より、英国映画協会教育部門でリソースエディターとして教材の開発と出版を担当。前衛的なビデオ集や、学校や大学における映画教育をサポートするための手引書やオンライン教材などを発行。『おはなしの始まり(Starting Stories)』は国内の賞を受賞。メディア・映画教育関連の国際会議への参加多数。BFI勤務の傍ら現在もロンドン大学教育学部大学院で研究を続けている。

16:45～18:45

(4) パネルディスカッション「映画教育を考える」

このディスカッションでは、内外の事例をみながら、今後、コミュニティシネマはどのような教育プログラムを行うことが考えられるのか、その可能性と課題を考えます。

司会:

内藤篤[弁護士、ニューヨーク州弁護士]

映画・音楽・演劇・出版・プロスポーツ等のエンターテインメントおよびメディア関連の法実務が専門。著書「ハリウッド・パワーゲーム／アメリカ映画産業の『法と経済』」(TBSブリタニカ)「走れ、エロス!」(筑摩書房)「エンターテインメント・ロイヤルの時代」(日経BP)等。訳書「エンターテインメント・ビジネス——その構造と経済」他。]

パネリスト:

アラン・ベルガラ

ウェンディ・アール

佐伯知紀(文化庁芸術文化調査官)

1984年から東京国立近代美術館フィルムセンターに勤務。戦前戦後の日本映画の研究、映画フィルムの収集、保存、復元、公開等の事業に従事する。幻の映画といわれた『忠次旅日記』や複数のプリントから作製した最長版『瀧の白糸』の復元、ロシアに残されていた日本映画の調査等を担当。また、「文化庁優秀映画鑑賞推進事業」を担当、各地域の映画事情を学ぶ。2003年4月より現職。

篠雅廣(高知県立美術館館長)

高知市出身。大阪大学大学院修了後、福井県立美術館学芸員、西宮市大谷記念美術館学芸課長、京都市美術館学芸課長を経て、2004年4月、高知県立美術館館長に就任。主著書に『小出檜重』がある。

西嶋憲生(多摩美術大学芸術学科教授/映画評論家)

1970年代後半から映画・映像芸術の研究者として執筆・翻訳の傍ら、実務家としてフィルムアート社で映画書の編集、「月刊イメージフォーラム」編集長など。愛知芸術文化センターや川崎市市民ミュージアムの委員を務めた後、現在、多摩美術大学教授。著書「生まれつつある映像—実験映画の作家たち」(文彩社)、共著「映像表現の創造特性と可能性」(角川書店)、訳書「フィルム・ワークショップ」(アンディ・ウォーホル・フィルム)(ダゲレオ出版)など。

19:00～ レセプション 会場:ホテル日航高知旭ロイヤル 088-885-5111

8月21日(土)

10:00～11:00 プレゼンテーション「高知における教育プログラムの事例報告」

高知における文化芸術関係の教育的事業のプレゼンテーション。高知県立美術館による教育普及事業やNPO法人高知こどもの図書館の活動など、高知で行われている様々な「教育プログラム」を紹介します。

11:00～12:00 プレゼンテーション「国内の映画教育実践報告」

国内でも様々な映画教育プログラムが行われています。ここでは、コミュニティシネマにおける「教育プログラム」のさががけともいえる三つの事例を映像を使ってご紹介いたします。

シアターキノ(札幌)

札幌市の映画館シアターキノでは、2000年より2002年にかけて札幌市と共同して札幌映画制作ワークショップを開催、ハイビジョンデジタル短編を制作。2000年より「キノ映画講座」を開講。映画制作準備ゼミ、上映企画実践ゼミなどを実施している。また、地域の学校と連携して子どもたちの体験学習や高校生と映画監督との対話などの教育プログラムを実施。「北海道コミュニティシネマ・札幌」を設立し、さらに教育プログラムの充実をはかっていく予定。

金沢コミュニティシネマ推進委員会

昨年夏に設立された金沢コミュニティシネマ推進委員会では、今年6月から「こども映画教室」を実施している。アニメーション映画の鑑賞、ソーマトロープやマジックロール、ゾーイトロープやパラパラまんがなどを実際につくることによって映画の仕組みを学ぶ講座、映写機にさわったり映画館の中を探検する授業など、全五回からなる講座と、メディアアーティストの岩井俊雄氏によるワークショップや無声映画の演奏付上映の鑑賞会といった課外授業からなる充実した「映画教室」を紹介。

人吉映画センター/人吉くま(球磨)映画文化協会

人口4万人弱の熊本県人吉市に1977年に設立された人吉映画センター/人吉くま(球磨)映画文化協会では、「教育に映画を！」をスローガンに長年にわたり、学校と連携しながら子どもたちに映画をみせる活動を続けている。学校教育、映画館をとりまく環境が変化するなかで、活動がどのような変遷をたどってきたのか。豊富な経験に基づく報告によって、現在の学校教育が抱える問題がみえてくる。

13:30～15:00 アラン・ベルガラ氏によるワークショップを開催！

上映作品「Petit a petit, le Cinema(1) 少しずつ、少しずつ映画へ」

アラン・ベルガラ氏が高知の小中学生を対象に上映と講義の実践を行います。

上映作品は、ベルガラ氏自身が製作に携わったフランス国立教材センターが出しているDVDシリーズの中の1本。数多くの映画の抜粋からなるDVDです。

ベルガラ氏は高知の子どもたちに何を伝えてくれるでしょう。

15:15～17:00 コミュニティシネマについてのフリーディスカッション

まだまだ、わかりづらい“コミュニティシネマ”。このディスカッションでは参加者の皆さんの疑問や意見を自由に話し合ってください。

高知におけるコミュニティシネマ活動の紹介として、「高知に市民映画館(コミュニティシネマ)を作る会」(有光文平代表)の発表も行います。